

## アベノミクスの第二弾とは何か？

—ダブルスタンダードのごまかしの政治を許さないために—

戦争法案を強行採決したアベ政治は、アベノミクスの第二弾をかかげ、内閣改造をし、来年の参議院選に向けた政治に入りました。

SNSでアベ政治のダブルスタンダードということが言われていました。その内容をわたしもくみ取って、わたしの『反障害通信』53号の付録で表を作りました。現在のところえ返して、もう少し手直しと増補することがありますが、とりあえずそのままにしています。インターネットをされている方は以下からアクセスできます。

[https://771033e8-ab2b-4e5b-9092-62a66fd59591.filesusr.com/ugd/6a934e\\_152bc584f4ab4971be2bfa56b8b1f7c3.pdf](https://771033e8-ab2b-4e5b-9092-62a66fd59591.filesusr.com/ugd/6a934e_152bc584f4ab4971be2bfa56b8b1f7c3.pdf)

最初に、わたしもあいまいになっていた用語の整理からしておきます。アベノ政治をアベ首相のとりまきの日本会議的考えに基づくファシズム的な政治として使います。それも含んだアベ政治を、ダブルスタンダードの政治で、自民党保守の流れとアベノ政治へ行き来する政治として規定しておきます。

戦争法案は、まさに右よりのというより、アベノ政治として、とりまきの日本会議の意向に沿ったファシズム的な動きとしてあったのですが、今回は来年の参議院選に向けて、強行政治の中で下げた支持率をアップしようと、ダブルスタンダードということの、もう一方の自民党保守政治へ舵を切って、ごまかそうとしています。

さて、何をごまかそうとしているのかを暴いてみます。

まず、第二弾というなら、第一弾の総括をした上で出すことです。ですが、そのような総括は何も為していないということがあります。そもそも失敗したという批判が出ています。そもそも、アベノミクスは赤字財政をふくらませる公的資金の導入や株価操作の一時的経済浮揚策です。「選挙で何を基準に投票しますか」という世論調査をみると、「経済と雇用」ということがまずトップにあげられます。選挙前に経済を浮揚させ議席を確保・増やすという常套手段をとっているのです。選挙公約の他の個別の政策は後景に退いていますし、また戦争法案のようなことはちゃんと書いてもないという話です。時には原発政策のように公約違反までしています。それで、まるで白紙委任でも受けたかのようなそれを述べ立て、先の選挙で信任を得たとかいい、また、後の選挙で信任を受けるというごまかしを言っています。個別政策が信任されているわけではないのです。しかも、選挙制度も民意を反映し得ないシステムになっています。それは民意を反映させる政治システムがもはや機能していないのです。前から主張しているのですが、個別政策に民意を反映させる直接民主主義の制度を導入すべきことです。

さて、話を戻します。

第一弾が失敗したことで（失敗したとははっきり認めず、目標に到達していないと言っているだけなのですが）、中国経済の落ち込みや、原油価格が下がったことによって、デフレが解消されなかった、としているのですが、そもそもアメリカでシェール石油の生産が

進んだ事による原油価格の下げどまり、アメリカ経済の持ち直しがあった上で、円安が進んでいることも考えるなら、相殺されているわけで、そしてそもそも、経済は水物だとしても、予想が外れたなどという言い訳するのは政治家として失格です。しかも、そもそも消費税増税第二弾も含んで成長戦略の目標を出し、それを先送りしているのですから、アベノミクスが破綻していると言われることです。そもそも、グローバル化が世界を覆い尽くした時代に、「成長戦略」など出すのが間違っているのです。もうずっと以前に自公の議員立法で「障害者自立支援法」を出すときに、「持続可能な福祉政策」ということを唱えたのです。それに合わせるなら、「持続可能な経済政策」となるはずですが（法的な流れの中で言いますが、福祉は基本的人権の問題で、「持続可能な」ということが基本的人権の保障を護れないとき、何よりも優先して財政出動すべきことで、そもそも、そのために福祉目的税として消費税の導入をしたはずで、一部金持ちの減税をし、大企業や金持ちのために「経済成長戦略」を謳うことこそ、取り下げることです）。アベノミクス批判は、今号の読書メモにもふれているので、そちらも参照してください。前号の読書メモ・水野和夫『資本主義の終焉と歴史の危機』集英社(集英社新書)2014も。

第二弾の内容は、具体的なことがまだ出されていず、意味不明なのですが、それでも、言い得ることがあります。ここでも三本の矢ということが言われているのですが、まず「強靱な経済」ということで、2020年までに600兆円へのGDPのアップがあります。これは、そもそもアベノミクスの第一弾の3%の経済成長に相当するようです。そもそも第一弾で失敗したことをどう総括しているのか分かりません。しかも、見え見えのごまかしです。というのは、3%という数字を出せば、毎年や月ごと、数ヶ月おきの経済成長率で、検証されますが、2020年ということで目標金額的に出せば、それまで失敗が露呈しません。しかも、2020年はおそらく首相は交代していますし、次の衆議院選ももう終えています。失敗の露呈の先送りを計っているごまかし政治です。

さて、後の二本は、子育て支援や介護という福祉に関する政策です。アベノ政治からダブルスタンダードのもう一方の自民党保守政治の「国民の命と暮らしを守る」という福祉のところへ表面的転換です。一体何をやろうとしているのでしょうか？ 保育園待機児童0にするとか、介護職離職を0にするとかいうことが少し出ています。そもそも、第一弾で、生活保護の切り下げ、介護報酬の切り下げをしたのを忘れたのでしょうか？ そして、労働者派遣法の改悪の中で非正規雇用が進み、貧困率がますます拡大していく政治を進めたことを忘れたのでしょうか？ 福祉的な看板を表に出すのなら、第一弾でなした福祉の切り捨てや、「世界一企業が活動しやすい国にする」としてなした労働条件の改悪を、間違いだったと全部リセットしてから、出して行くことです。そもそも、なぜ福祉の切り捨て、切り下げを第一弾でなしていたのでしょうか？ お金を「成長戦略」や軍事費に回すためだったのではないのでしょうか？ その「成長戦略」が失敗したとして、相変わらず「成長戦略」の目標を同じにして、福祉のお金はどこから出て来るのでしょうか？

さて、これらをまとめて「一億総活躍」ということで突き出しています。

アベノ政治にとって、「積極的平和主義」でアメリカと一緒に戦争してひとを殺すのも活躍だし、武器を売ってお金儲けするのも活躍だし、事故原因の究明も事故処理もできてない原発を輸出して金儲けするのも活躍なのです。活躍の中身をちゃんと吟味しないで、「活躍」などということばを軽々しく使って欲しくないのです。それに生活がなりたないひとを生み出す政策やって、活躍以前にセフティネットちゃんとやってから、「活躍」という言葉を使うことです。そもそも第一弾で「女性の活躍」という標語を出していました。こういう標語を出したのは、女性が総体的相対的に活躍できていないという状況認識があるからでしょうが、なぜ、そうなっているのかきちんと押さえて、そのことを解決する方向で、「女性の活躍」ということを打ち出すべきです。そもそもシングルマザーの貧困率が高いところでは、そして「夫婦別姓」問題とか、ヘテロセクシュアル的なところにとらわれた性差別があるところでは、「一部エリート女性を登用する」というようなことにしかならず、総体的相対的に女性は男性に従属する差別から抜け出せないのです。だいたい、性差別的な考えにとらわれている女性を大臣に取り立てているし、ポーズとして「女性の活躍」を出しているという、みえみえのごまかしの政治でしかないのです。これも「ハダカの王様誰だーアベだ」（戦争法案に反対していたシールズのコール）現象のひとつです。

もうひとつ、これも既にいろんなひとから、出されていることですが、「一億・・・」という標語です。これはファシズム的な大翼賛政治に使われている言葉です。戦争法案などを成立させたというアベノ政治から、来年の参院選に向けてダブルスタンダードのもう一方の保守自民の顔を出そうというアベ政治は、福祉的なことを出そうとしているのですが、ファシズム的な標語を使ったら、「衣の下の鎧が見える」のです。

こういうダブルスタンダードの政治を暴き出し、とりわけファシズム的な動きをしつかりと押さえ、アベ政治総体を葬り去ることが今、必要になっています。